34

『留真譜』の医部について

竹内　尚
日本鍼灸研究会

【緒言】

『留真譜』は楊守敬（1839～1915）の撰になる，古籍善本の書影集で，初編と二編からなり，初編は光緒二十七年（1901），二編は楊守敬没後の民国六年（1917）に刊行されている．本書の元となったのは，楊守敬の序などによれば，江戸後期の考證医家・森枳園（1807～1885）が編纂した書影集である．日本駐在中にそれを入手した楊守敬は，さらに自ら蒐集や書写した書影を加え，本書を刊行した．本書は『経籍訪古志』（以下，『訪古志』と略記）の図録編と見なされ，広く知られているにも関わらず，未だその詳しい研究を聞かない．よって本発表では，『留真譜』の医部について，その概略を報告し，研究の端緒とする．テキストには『珍稀古籍書影叢刊』所収の『留真譜（上・下）』（北京図書館出版，2004年）を使用した．

【『留真譜』について】

本書は初編十二巻，二編八巻よりなり，各巻を，経・小学・史・子・医・集・釈・雑部にあてて書影を著録している．その書影は古籍善本の，序跋・目録・巻首・刊記などの零葉であるが，葉の全体ではなく概略，とりわけその外周のみを記することを専らとする．書影後にまま楊守敬の按語が附載されることがある．影印本の解題に拠れば，初編には319種の書影が，二編には130種の書影が著録されているという．

【『留真譜』の医部について】

『留真譜』の医部は，初編の巻七・巻八，二編の巻四・巻六があてられている．初編巻七には，『素問』『太素』『難経集注』『金匱要略』『傷寒論』などの21書目について，50半葉分の書影を著録する．初編巻八には，『太平恵民和剤局方』『医説』『三因極一病證方論』『活人事證方』などの32書目について，53半葉分の書影を著録する．二編巻四には，『銅人腧穴鍼灸図経』『鍼灸資生経』『備急灸法』『仁斎直指方』などの20書目について，50半葉分の書影を著録する．二編巻六には，『素問』『素問呉註』『難経集注』『黄帝明堂灸経』『脈経』などの13書目について，51半葉分の書影を著録する．医部計四巻には，楊守敬の按語は附されていない．本書に著録される書目の多くは，『訪古志』に著録されるものと重なるが，『医心方』『本草和名』『医方考』『素問呉註』など，『訪古志』未著録のものも散見する．

【考察および結語】

医部に著録される書影について，楊守敬が按語を一切記さないこともあって，その書影の由来を考證することは甚だ困難である．一見すると，その多くは『訪古志』に著録される善本もしくはその転写本や重刊本と思われる．しかし，今日見ることができる版本と比較してみると，版心や文字にまま相違がみられ，その書影の正確さにはやや疑問が残る（例えば，『重広補注黄帝内経素問』は顧従徳本の書影と思われるが，その版心は顧従徳本とは異なっている）．また，全く由来不明の書影も散見される．『傷寒論』（趙開美本に似るが，巻頭列銜を載せない）や『難経集注』（内題や体式が旧抄本と同様でありながら，刊本の如くである）がそれである．『傷寒論』に関しては，かつて小曽戸洋氏が，楊守敬が作為したものであると報告している（「楊守敬『日本訪書志』『留真譜』所載影北宋本傷寒論の検証」，1983年）．本書は近世における古籍善本の書影集における嚆矢として重要視されてきた．しかし本書所載の書影は，その影刻の正確さや底本の由来に不審な点が散見されるため，その使用にあたっては注意を要する．